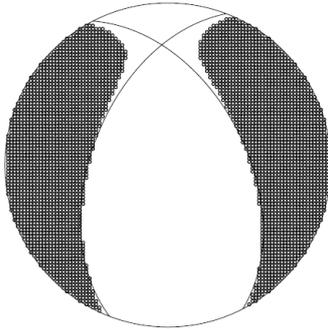


9月30日 インドネシア、パプアの地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

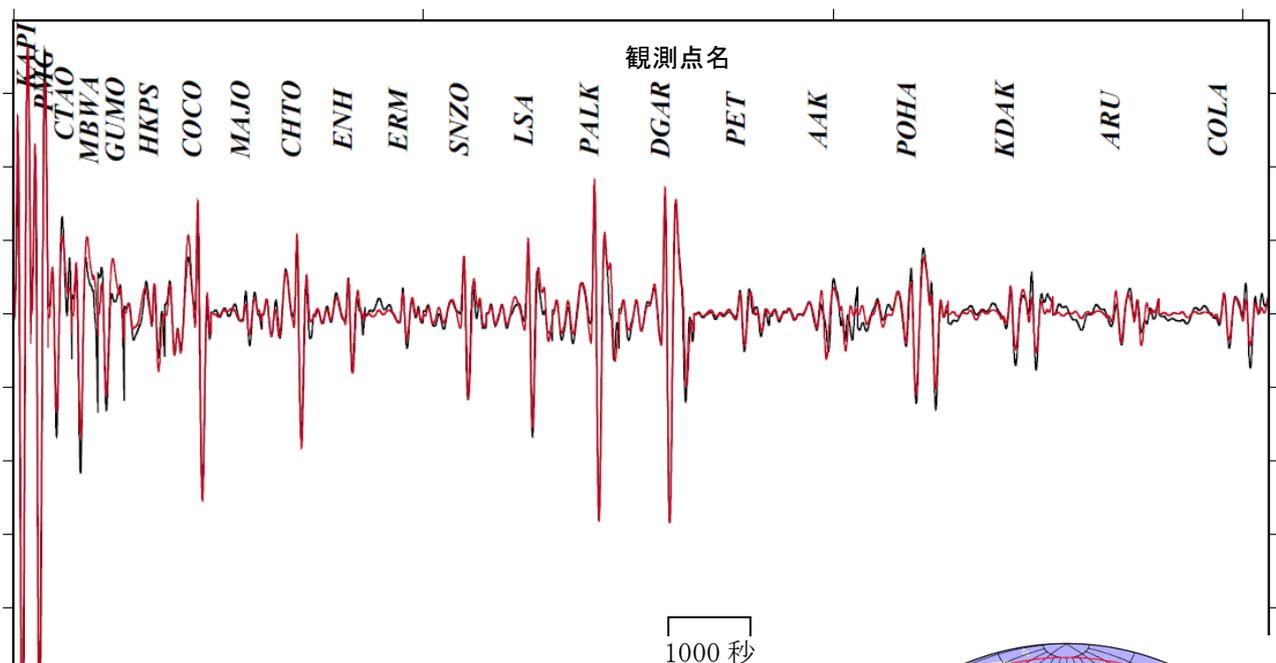
W-phase による解



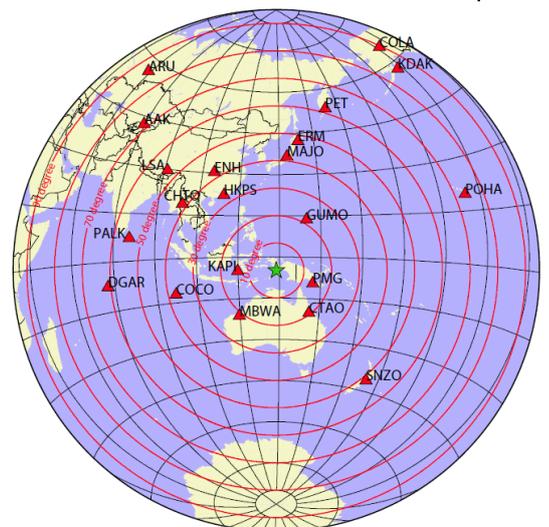
Mw7.0 (6.99)

2010年9月30日2時11分(日本時間)にインドネシアのパプアで発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.0であった。なお、震源位置はUSGSによる位置(S4.920, E133.783, 深さ12km)とした。

W-phaseの解析では、震央距離 10° ~ 100° までの21観測点の上下動成分を用い、100~500秒のフィルターを使用した。
注)W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用しました。記して感謝します。